

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

一人ひとりを大切に、生徒が生き生きとする学校づくりをめざす！

- 1 加速度的に変化する社会の中で対応できる「資質・能力」を育成する。
- 2 「安全安心な学校づくり」を中心に据えに生徒一人ひとりを大切に、自己実現を支援する学校づくりをめざす。
- 3 地域に根差した魅力ある学校づくりを進める。
- 4 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づき、普通科総合選択制から総合学科への改編に取り組む。

2 中期的目標

1 加速度的に変化する社会の中で対応できる「資質・能力」の育成

(1) 次期学習指導要領改訂を踏まえ「育成すべき資質・能力」を伸長させるための授業改善に取り組む。

- ア アクティブ・ラーニングの視点に立った深い学び・対話的な学び・主体的な学びを実現するための授業改善をすすめる。
- イ「アクティブ・ラーニング研究チーム」を中心に授業改革につながる研究・実践をすすめ、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。
- ウ プロジェクターを活用したアクティブ・ラーニング型授業を継続的かつ多様な教科で実施することで生徒の満足度を向上させる。
(学校経営推進費対象事業)

(2) キャリア教育の充実を図る。

- ア 外部の基礎力診断テストを効果的かつ組織的に活用し、進路を切り拓く学力育成に取り組む。
- イ「キャリア教育支援体制整備事業」の取組み・成果を継承し3年間を通して、生徒一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育て、社会の中で自立し、学び続けようとする生徒を育成する。

2 安全安心な魅力的な学校づくり

(1) 学習支援委員会を軸に教育相談体制を充実し、中退防止に努め、一人ひとりを大切にする教育の充実を図る。

- ア 学習支援委員会と教育相談委員会の活動や中退防止の取組みを充実させるとともに、教科・学年との連携をいっそう図り、生徒情報の共有化を促進するとともに支援の取組みを進める。
- イ 中学校訪問・中高連絡会を継続し、生徒理解を深め、中途退学者の減少に努める。
- ウ クラス開きをきっかけにした人間関係構築プログラムの充実を図り、今まで以上に人間関係のトラブルの減少を図る。

(2) 防災教育の充実を図る。

- ア 大阪湾に近い本校の立地から、南海トラフの大地震を想定し、学校生活における安全確保にとどまらず、一般生活での自分の身の安全を守る方法や、周囲・地域の人への貢献を考える姿勢などを身につけさせる。

(3) 生徒の校内美化の意識を高めるため美化活動の充実に取り組む。

(4) 生徒が自らの健康と安全を考えるため、薬物乱用防止、喫煙防止に積極的に取り組む。

(5) 進化の著しい携帯情報端末機器（スマートフォン、タブレットなど）の正確な知識を習得し理解を進め、安全な使用法を身につけさせる。

(6) 生徒が安全・安心に学校生活を送れるよう、事故防止を観点におき施設・設備の充実を図る。

3 地域に根差した魅力ある学校づくり

(1) 大阪市西部のベイエリアに立地する学校という特色を生かし、地域の企業、施設などの外部と連携し、職場体験・実習などの活動を充実させる。

- ア 地域の企業、施設あるいは区役所と連携しインターンシップや職場体験を充実させる。

(2) 広報活動を充実させ、「魅力的な学校」、「行きたい学校」としての認知度を高める。

- ア 中学校訪問、説明会を積極的に展開し、大正高校のきめ細やかな教育内容の理解を広める。

(3) 部活動の活性化を図り、地域に貢献できる部活動づくりを進める。

- ア 部活動の参加率を上げるとともに、活動を地域にアピールでできるような取組みを進める。

(4) 生徒、保護者、地域の多様なニーズに応え、進路指導の充実を図り、就職内定率、進学決定率の向上を図る。

- ア 校内外の環境の変化に対応した進路指導の充実を図り、就職内定率 100%・進学決定率 100%、進路未定率 12%以下を目標とする。

(5) 授業内容充実のため学校外の人材や資産（施設・設備・機関）の活用を図る。

4 「大阪府立高等学校・大阪市立高等学校再編整備計画」に基づく総合学科への改編へ向けての取組み

(1) 校内の総合学科改編準備プロジェクトチームの活動を継続し、改編の実現へ向けての具体的な施策構築に取り組む。

- ア 社会、地域のニーズを把握し、次期学習指導要領改訂を踏まえ育成すべき生徒像の見直しをはかり確定する。
- イ 総合学科のコンセプト、系列、「産業社会と人間」と「総合的な学習の時間」、などの学校教育の中心となる部分の見直しを進める。
- ウ 総合学科としての校内組織の在り方についての検討を進め、組織改革に取り組む。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 1 月実施分]	学校協議会からの意見
<p>【学習指導】「授業はわかりやすい」77%→75%と若干数値は落ちているが、各項目とも3学年通して70%を超え、アクティブ・ラーニング型授業を学校全体として取り組んできた成果は維持していると考え。</p> <p>【生徒指導・生徒会】「生徒を公平に指導してくれる」66%→67%、「先生は生徒の身になって考え、行動してくれる」66%→68%、「先生は悩みや困っていることに相談にのってくれる」71%→73%、「学校は部活動を応援してくれる」71%→73%。今後もより丁寧な指導を継続していく必要がある。「大正高校には一緒にいて楽しい友人がいる」84%→85%、「お互いを思いやることの大切さを学んでいる」69%→73%は、人権を大切にする教育を進めてきた結果と考える。</p> <p>【進路指導】「生き方を考えるプログラムがある」75%→77%、「先生は進路について将来をともに考えてくれる」75%→78%。1年生キャリアプロ</p>	<p>【第1回】6月11日(土)9:40~10:30 公開授業見学のあと協議(10:40~12:00) ・生徒が真面目に授業を受けている。学校の雰囲気も良くなり、挨拶する生徒も増えた。また情報の授業を見学したが、ワープロソフトや表計算ソフトを高校の授業で学べるのは羨ましい。</p> <p>・(学校より)H28 学校経営推進費の支援校に決定し、普通教室 20 室に超単焦点プロジェクターが設置される。政治的教養を育む教育として7月に校内で模擬投票を行う予定。</p> <p>【第2回】11月12日(土)9:40~10:30 公開授業見学のあと協議(10:40~12:00) ・グループ学習で積極的に意見を述べる土壌ができています。</p> <p>・思っていたより論理的にしゃべる。全員の意見を出して、異なる意見をどう扱うか？</p> <p>・生徒自身が理由づけて意思決定できるところまでもっていくことが今後課題。</p> <p>・今日のクローンの内容は1・2時間の授業ではもったいない内容。</p> <p>・(補足)各委員には、授業見学の最後に授業内容に対するコメントをもらい、「斜め」の</p>

<p>グラム「カタリバ」や3年のマネープラン HR などを行うなどキャリア教育を昨年度同様充実させてきた。</p> <p>【保護者向けアンケート】 「こどもが授業が楽しくわかりやすい」66%→62%とやや減少（昨年は58%→66%と大きく上昇の反動か）。その他の学習指導や生徒指導についての項目は80%前後の高い数字で肯定的に受け止められている。</p> <p>進路指導については、「適切な進路指導を行っている」77%→81%、「家庭への適切な情報提供」72%→75%、「保護者の相談にのってくれる機会がある」69%→75%、丁寧な指導の結果、よい評価が得られている。</p> <p>以下16項目のうち、12項目で2~7%の数字が上がっている。</p> <p>【教員向けアンケート】 34項目の質問のうち23項目の数値が上がった。「人権について考える機会を設けている」79%→95% (+16)、「生徒が互いに思いやることができる環境づくりに努めている」61%→82% (+21)、「到達度の低い生徒に対する学習指導を、全校的課題として取り組んでいる」72%→89% (+17)。</p> <p>校内研修や支援教育の委員会の積極的な活動の結果と考えられる（「校内の研修体制が充実し、教育活動に活用されている。」71%→80% (+9)</p>	<p>関係からの授業参画していただいた。</p> <p>【第3回】2月3日（金）14：30～15：30 学校より泉尾・大正の統合新校の進捗状況を報告（これまで4回の会議を行いカリキュラム作成等の検討他）。学校教育自己診断の結果を報告。H28年度学校経営計画（学校評価）の結果を報告。3年生（37期生）の進路状況について説明した。</p> <p>（意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大正区内の中学にとって統合再編は大きな問題。人間づくりをしている大正高校の有終の美を飾ってほしい。体育祭や文化祭で生徒たちは本当にいい顔をしていた。 ・（最近の教育改革の動きを受けて）塾業界も授業の評価の方法を変えつつある。大正高校の授業改革はこれまでの方向性で良い。生徒の受け止めをどうわかりやすくしていくかが重要。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「育成すべき資質・能力」の伸長	<p>(1) 「育成すべき資質・能力」の伸長</p> <p>(2) キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア 昨年度設置した「アクティブ・ラーニング研究チーム」を核に授業改革につながる研究・実践をすすめ、評価方法の研究も含め授業改革の進展を図る。 自己診断で「わかりやすい」「工夫」「考え・発表する」の数値アップを図る。 イ プロジェクターを活用したアクティブラーニング型授業で生徒の満足度を向上させる。（学校経営推進費対象事業）</p> <p>(2) ア 外部機関の基礎力診断テストを活用し、生徒個々の学力の伸長を外部のものさしで客観的に把握することで「進路を切り拓く学力」育成を行う。 イ「ドリームパスファイル」を1年次から卒業まで活用しポートフォリオとしての活用を図る。</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断で 「わかりやすい」77%→80% 「考え・発表する」74%→76%</p> <p>イ 学校教育自己診断で 生徒「工夫している」76%→80% 教員「ICT等の設備の活用」80%→85%</p> <p>(2) ア ・基礎力診断テストの各自の結果で、学力到達度の設定目標を上げる。 ・進路HRで振り返りの時間の確保。 イ「ドリームパスファイル」の活用状況を点検する。</p>	<p>(1) ア ・「アクティブ・ラーニング（AL）研究チーム」が中心になり、ALの視点に立った授業の推進に取り組んだが、生徒の学校教育自己診断では、 「わかりやすい」77%→75% 「考え・発表する」74%→70% とポイントでは低下した。ただ生徒へのAL授業に関するアンケートでは、61%が参加型授業へ肯定的回答をしている。（「視野が広がり、深く学べる」14%）</p> <p>（△） イ 12月に超短焦点型プロジェクター20台が全HR教室に設置された。設置後間もないので、生徒への成果はすぐには出ていないが、教員アンケートでは「ICT等の設備の活用」80%→91%と増加している。（○）</p> <p>(2)ア ・4月と11月に基礎力診断テストを実施。診断結果をHRで担任から分析結果と今後の学習方法についてフィードバックを行なった。2年生は下位層が減少、1年生は上位層が増加した。（○）</p> <p>イ ・テスト結果や行事のまとめなどをポートフォリオ化することで、一括で管理することで進路決定に際して参考にすることができた。（◎）</p>

府立大正高等学校

<p>2 地域に根差した魅力ある学校づくり</p>	<p>(1) 職場体験・実習などの充実 (2) 広報活動の充実 (3) 地域に貢献できる部活動の活性化 (4) 進路指導の充実 (5) 授業への外部人材、資産の活用</p>	<p>(1) ア 地域の企業、施設、区役所などと連携しインターンシップや職場体験を充実させる。 (2) ア 中学校訪問、説明会を工夫する。よりわかりやすい内容に工夫し大正高校の認知度と理解度を高める。また説明会については参加者数の増加を図る。 イ 広報新聞「元気マンニュース」の発行とポスターの作成 ウ 公開授業を中学校教員等を対象に実施する。 (3) ア 体験入部、部活動紹介を活性化させ、部活動の参加率を向上させる。 イ 活動状況を連絡黒板、生徒会ニュース、元気マンニュース、学校ホームページなどを用いて積極的に応援する。 (4) 就職内定率、進学決定の上昇を図り進路未定率の減少を図る。 (5) 授業内容の充実のため積極的に外部人材や資産（施設・設備・機関）を活用する。</p>	<p>(1) ア 参加生徒数、参加状況を把握する。インターンシップ 20名以上 職場見学は割合の増加を図る。 (2) ア 内容については毎回リハーサルを行い点検する。 参加者数 200人以上 (1～3回の合計数) イ 元気マンニュースの発行 2500部以上 ウ 11月の公開授業を中学校等へも呼びかけ見学者を増やす。 (3) ア 参加率 32%→40% イ 掲載状況を点検する。 (4) 就職内定率 100% 進路未定率 20%→15% 進学決定率 100% (5) 回数と内容を把握する。</p>	<p>(1) ア ・参加生徒を精選したため 17人(H27)→9名(H28)と減少したが参加者は意欲が高まった。(△) 一方、職場見学は 96社(H27)→113社(H28)と増加。総人数 207名。(◎) (2) ア ・275人(1～6回)(◎) イ・1800部であったが、配布方法を精選し、効果の向上と経費削減を図った。ダイジェスト版と3号を作成(○) ウ 保護者のみで 6月30名、11月20名の参加があった。参加を促す仕掛けの工夫が課題(△) (3) ア ・参加率 40%(H27)→34%(H28) 11月上旬に仮入部週間を設定し、入部を促したが部員増にはつながらなかった。今後も地道な勧誘を継続(△) イ ・HPでは授業や部活動の様子をタイムリーに伝え広報を行った(85回更新)。(○) (4) 就職内定率 75/75人 100% 進路未決定率 25/189人 13.2% 進学決定率 79/82人 96.3% H27 進学希望 48名から大幅増。未定者も 19%から大きく改善(◎) (5) ・大手前大学外国人講師による出前講座 ・ECC 外国語専門学校への体験授業 ・1年、地元企業と保育所員による講演 ・1年、地元警察による安全講演 ・1年、大学生 30名による進路プログラム「カタリバ」実施 ・2年、地域企業への職場体験(40名) ・3年、社労士による労働条件講演(◎)</p>
<p>3 安全安心な魅力的な学校づくり</p>	<p>(1) 支援体制の充実 (2) 防災教育の充実 (3) 校内美化 (4) 健康・安全教育 (5) 携帯情報端末機器の扱い (6) 校内環境・設備の充実</p>	<p>(1) ア 入学当初の学校教育支援カードに加え学年途中でも実施し、より決め細やかな生徒実態の把握を行い支援体制の充実を図る。 イ 学習支援委員会などを活用し支援の必要な生徒のサポートに努める。 ウ 中学校訪問、中高連絡会の充実を図り生徒状況を的確に把握する。 エ 1年生においてクラス開きを中心とした人間関係構築プログラムの充実を図る。 (2) ア 3年間支援を受けた「実践的防災教育総合支援事業」の内容を継承し、発展的な内容に進化させる。 (3) ア 美化月間を実施し校内美化の意識を高める。 (4) ア 薬物乱用防止、喫煙防止について生徒指導 HR および保健 HR において取り組む。 イ 心肺蘇生法について学ぶ機会を設ける。 ウ 感染症対策を啓発し、予防に努める。 エ 熱中症対策を啓蒙し発生防止に努めるとともに対処法を身につけさせる。 (5) ア スマートフォンやタブレットについてその正しい扱い方法を知るとともに自分を守り、人を傷つけない方法を身につけさせる。 (6) ア 事故防止のための環境整備に努める。</p>	<p>(1) ア 学校教育支援カードの複数回の実施とその分析 イ 開催回数を把握し内容を検討する。 ウ 件数を把握し、内容については点検する。 エ 中退者 →20人以下 遅刻回数 5300→4800 (2) 学校教育自己診断(防災について学ぶ機会 78%→82%)、 防災教育等の内容の工夫 (3) ア 校内美化活動の点検を行い、清掃状況の把握を行う(回数、参加人数)。 (4) 学校教育自己診断(薬物等から身を守る) 80%以上 (5) ・講演や HR の実施状況を把握する。 ・アンケートによる意識の変化 (6) 学校教育自己診断(施設・設備の安全衛生面) 64%→68%</p>	<p>(1) ア ・1年入学時に加えて、2年進級に要支援に当たる数名に対して支援カードを作成。(◎) イ ・年8回開催。定例に加えて個別のケース会議開催。(◎) ウ ・中学校訪問 3月 新1年生聞き取り 50校。 秋 広報のための中学校訪問 60校 秋 3年生による進路報告訪問 38校 7月 中高連絡会 16校参加。(○) エ (3/31 現在) ・中退者 20名 (◎) 遅刻回数 5547(H27)→4429(H28) 昨年比 20%減(◎) (2) 学校教育自己診断「防災について学ぶ機会」78%→76% (○) いろいろな場合を想定した防災教育(1年 9/15 津波、2年 6/23 高潮・津波、3年 11/24 地震火災、避難訓練 9/29)を実施。(◎) (3) 6月に美化月間を設定し、美化委員によるきれいチェックを行う。点検結果を一覧表にし見える化し意識を高めた。(◎) (4) 「交通安全や薬物の脅威から自分を守る」→79% (○) (5) 1年次に 7/14HR でネット利用について講演を行なった。(○) (6) アンケート結果→62% (○)</p>
<p>4 総合学科への改編に向けての取組み</p>	<p>(1) プロジェクトチームの積極的な活動</p>	<p>(1) 改編に向けてのプロジェクトチームの動きをさらに活性化させる。 ア 育成すべき生徒像の具現化に取り組む。 イ 根幹部分になるコンセプトづくり、系列、「産業社会と人間」「総合的な学習の時間」の内容を具体化していく。 ウ 総合学科としての校内組織を検討し、その改革に着手する。 エ 総合学科の実情に則した教務内規、生徒指導内規について検討を進める。</p>	<p>(1) プロジェクトチームの進展状況を把握する。その都度経過を職員会議で報告する。</p>	<p>(1) 9/5 に再編整備計画により大正高校と泉尾高校は統合整備され、新たな総合学科高校になると決定された。 以降、統合新校プロジェクトチーム(PT)が設置され、その下で学校ワーキングチーム(WT)や教育課程 WT 等を置かれ、両校からのメンバーによって、統合新校づくりに取り組んでいるところである。(◎)</p>